

第27回日本臨床エンブリオロジスト学会 ワークショップ 実技コース 紹介

日本臨床エンブリオロジスト学会では、経験豊富なベテランエンブリオロジストによる懇切丁寧なワークショップを毎年2回行っております。コロナ禍で技術習得が滞っている方や聞きたいことは沢山あるのに聞ける人がいないよ〜とお困りの方はぜひ参加して日頃の疑問やうまくいかないことを講師にぶつけてみてはいかがでしょうか？

コース名

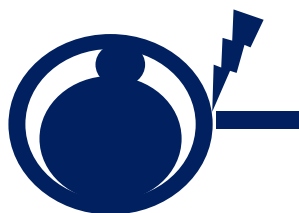
コース紹介

Conventional-ICSI



エンブリオロジストにとって、卵細胞質内精子注入法（Intracytoplasmic Sperm Injection：ICSI）は必須技術である。ICSIを行う際、Dishの作成、針のセッティング、精子不動化、卵子細胞膜穿破、精子の注入など多岐に渡る技術が必要であるが、施設間において、また個人間において成績の差が大きいのが現状である。そこで、今回、このワークショップにおいて、ICSI技術を学んでみませんか？これまで、長くICSIに携わってきた講師たちが丁寧に細かい部分までICSI操作を教えます。また、ICSIに関するトラブルシューティング、疑問、質問に答えます。まずは、ICSIの基礎となるConventional-ICSIを学んでみませんか？

Piezo-ICSI



PIEZO-ICSIはワークショップのなかでも人気のあるコースです。これから導入を考えている方や始めたばかりの方、より技術を高めたい方に向けたトレーニングを行います。機械の力を利用したPIEZO-ICSIは、術者間の技術差が少ない方法であると言われていますが、それは『正しいセッティング』ができるという前提で成り立っています。PIEZO-ICSIはセッティングが全てといっても過言ではありません。安定した成績を出すためのセッティングのコツを学び、実践を踏まえながらディスカッションし、患者様のために役立つ知識・経験を持ち帰っていただければと思います。

Vitrification (Cryotop法)



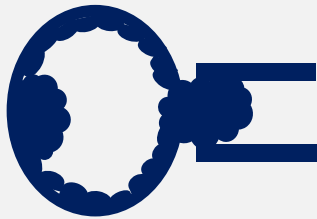
参加者皆様の経験値に沿った内容をご提案することを第一に考えています。未経験者の方には参加者一人ひとりに対し、十分な時間をつかい凍結時の胚操作を中心とした内容を、経験者の方には凍結時の胚操作のコツや、凍結操作に関する疑問などにお答えできたらと考えています。また、豊富な経験を活かし、皆様が経験されたことのあるトラブルに対する可能な限りの対処方法や、予期せず事態への心構えなどもお話しできればと思います。

Vitrification (Cryotec法)



ワークショップでは、専属胚培養士が、卵子・胚における凍結融解の成績向上のためにプロトコルの手技だけでなく、一つ一つのステップの目的やコツをデモンストレーションにて、丁寧にお伝えさせていただきます。また、ハンズオンパートでは、実際に皆様に体験して頂く事で、ワークショップで学んだ技術を日々のラボ業務でお役に立てるよう、お手伝いさせていただきます。

TE-Biopsy

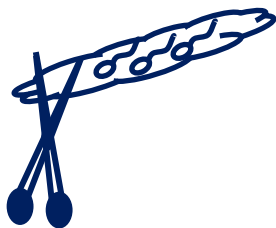


PGT-A (Preimplantation genetic testing for aneuploidy) は、体外受精から得られた胚の染色体数を、移植前に調べる検査です。欧米では流産を防ぐ目的で既に実施されていましたが、日本国内でのニーズの高まりを受け、「着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A) の有用性に関する多施設共同研究」が開始されました。国内でもPGT-Aのためのセミナーや、Biopsy技術のワークショップが様々な学会や企業で開催されています。

PGT-Aは検査のために胚のTE細胞を採取するので、胚にダメージを与える可能性があります。そのダメージより妊娠率が低下するか否かはまだ不明な部分も多いです。そしてBiopsy技術が検査結果に大きく影響します。PGT-AのTE細胞Biopsy技術は様々であり、術者によって大きく異なるのが現状です。

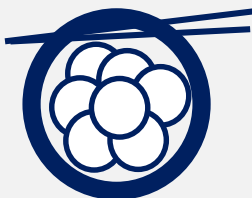
今回は、国内屈指のエンブリオロジスト団体である日本臨床エンブリオロジスト学会の経験豊富な講師陣が、安心安全・失敗しないBiopsy技術を懇切丁寧に教えてくれます。必見です。

TESE



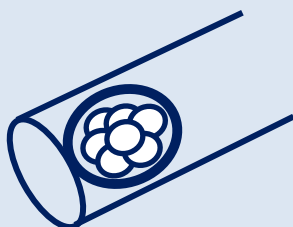
精巣内精子採取術(TESE)では精子を探索することも極めて重要ですが、ICSIのために精子のロスを少なくして調整することも重要です。そのためには、TESEを行う患者背景や精細管の状態、精子の数などによって調整方法を変え、工程数をできる限り減らすことが求められます。TESE-ICSIの実技研修は世界でも非常に珍しく、本コースではマウスの精巣を使用して、精細管からの精子分離からICSI時の精子の探索方法まで、理論に基づいて技術を学べる内容になっています。

Assisted Hatching



現在は、多くのIVF施設において、アシステッドハッチングはレーザーによって行っています。しかし、レーザーは急に不調になることがあります。そんなとき必要なのが、マニピレーターによるアシステッドハッチングです。本コースではPZD法による開口法をわかりやすく解説します。レーザー不調時におけるバックアップの方法として必修！

基礎コース



本コースでは顕微鏡、動物胚、培養液などは準備しますが、あえて具体的なテーマを設けていません。参加者がやりたいこと、知りたいことを他の参加者ともに手を動かしたり、話をしたりしながら、また実演や動画を交えながら問題を解決していく、もしくはその『コツ』を見つけていくことをテーマとしています。

【テーマ例】

- 1.手が震えやすい方ため安定したピペット操作を習得したい。
- 2.検卵時に卵子の見落としを減らしたい。
- 3.スタッフ間の胚質形態評価の均一化させたい。
- 4.スタッフへの指導方法
- 5.動画中の手技 (ICSI、AHA、バイオブシーなど) についての意見交換
- 6.各手技の合格基準はどうしているのか。
- 7.胚凍結・融解のコツ